

進路指導室から 第408号

はじめに

2月4日(日)は「立春」でした。「立春」とは、二十四節気において、春の始まりを指す日です。二十四節気は、紀元前に中国で生まれた暦で、1年を「立春・立夏・立秋・立冬」と4つに分け、さらにそれぞれの季節を6分割しています。四季の始めが春であることから、立春は二十四節気の最初の節気で、言わば1年の始まりとされています。

さて、基町高校のそばにある広島護国神社でも、その前日の3日(金)に「節分祭」、「追難の弓行事」、「福豆配布」が行われたようです。日が暮れるのも少し前よりも遅くなりつつあります。まだまだ外気は冷たいのですが、今年の冬もようやく終わりに近づいているようです。

「2023年度入試国公立大学志願状況」について

2月3日(金)に文部科学省は、国公立大二次(個別)試験の出願最終日となる同日午前10時現在の志願状況を発表しました。志願者数は前年最終日の同時点より4548人少ない38万7085人で、募集人員に対する倍率は0.1ポイント低い3.9倍となりました。なお、確定した志願者数と倍率は21日(火)に発表されます。

さて、二次(個別)試験まであと2週間余りになりました。現役生は、最後まで伸びます。緊張感をもち、時間を上手に管理しながら最後まで頑張ってください。

「小論文講演会」について

2月3日(金)にGakken 学校・社会人教育事業部 小論文入試問題分析プロジェクトチーム・リーダーの大堀 精一先生を講師としてお招きし、オンラインで「小論文講演会」を行いました。以下は、講演内容の概要です。

■ Part 1 合格答案のポイントは何か？

□ 内容以前に注意しておくべきこと

小論文は答案の内容も問われますが、内容以前に注意しておくべきことがあります。

- ◇ 答案は出来るだけ余白を残さない ◇ 指定字数の8割以上は書く
- ◇ 難関大は指定字数の5割書かないと採点対象外の場合も ◇ 原稿用紙のルールを軽視しない
- ◇ 改行のない答案は確実に減点(400字で最低1回改行) ◇ 乱雑な答案は採点官が読む気を起こさない
- ◇ 答案はコピーを読むので薄い字・小さい字は要注意 ◇ ボーナス点をもつ大学もある(満点プラスα)

私自身が生徒たちに小論文指導を行う際に最も大切にしているのが実は上記の8点です。生徒たちの答案を読んでいて感じることは、生徒たちの答案内容はほとんど変わらないという点です。評価において差が生まれるとしたら、案外上記の8点ではないかと考えています。つまり、答案を読む採点者が違和感を感じないような答案を作成することが必要です。また、小論文では高得点をとることが難しいのではないかとされているようですが、本校生徒の中で満点(600点)をとった生徒もいます。つまり、小論文をうまく活用すれば、逆転での合格も可能だと言えます。

□ 常識論と違う視点から筆者の主張を理解する

内容をまとめていく際には、まずは全体の構成を考えることが大切です。

- ◇ 小論文は「筆者の主張を理解する」パートとそれに対して「自分の意見を書く」パートから成り立つ
- ◇ 「筆者の主張の理解」がきちんとできなければ、意見も書けない
- ◇ ひとまず筆者の主張を共有し、自分の意見は、その延長上で考えるのが基本
- ◇ 「延長上で考える」とは課題文の筆者に賛成論の立場で書くこと
- ◇ 自分の意見の独自性は、根拠(具体例)を示すことができるかどうかにかかっている
⇒ 賛成論で書くときには筆者と違う具体例を挙げる
- ◇ 小論文の書き方に関する基本的悩み(書き出し・時間配分・要約・意見の独自性など)は、「筆者の主張の理解」によってほぼ決まる

何よりも「筆者の主張の理解」ができることが大切です。その点が曖昧になると、後にまとめていくことが、問われていることとずれていく可能性があります。また、「賛成論」でまとめるのは「そのほうが無難」だからではなく、「賛成論」でまとめることにより、筆者の常識論に対する違和感を共有することになり、常識とは違った視点、つまり多角的な視点からまとめていくことが容易になります。

□ 論点をきちんと把握する

続いて、違和感を論点として整理していく必要があります。

- ◇ 課題文には「論点」がある

- ◇ 「説得力があるのはAという考えだ、いやBだ」というように複数の考え方が生じたとき、その対立点を「論点」という
- ◇ 「論点」はふつう、立場の違う人の意見の対立点を言う
- ◇ 入試小論文では対立する考えの課題文を複数読ませるケースは少ない
- ◇ それなら課題文が一つの場合、「論点」はどこにあらわれるのか
- ◇ 常識論(正論)とそれに対する筆者の違和感の間に「論点」が生まれる

■ Part 2 小論文のトレンドは何か？

□ 3年目に入るコロナ関連の出題

- ◇ コロナ関連の小論文は2021年度は、学校推薦型・総合型が中心だった
- ◇ 2022年度は一般選抜も含めて幅広く出題された
- ◇ ウイズコロナ意識が既に日常化されてきた感もあり、2023年度入試は一つの節目として集約的に出題される可能性がある

□ 出題のフェーズが変わったAI問題

- ◇ AI問題は2017年度入試から出題され、2022年度で6年目になる
- ◇ AIの社会進出により人間の仕事が奪われるという「新しい格差」問題が出発点だった
- ◇ AIと人間の違い、AIと人間の協働、人間でなければできないこと「AI vs 人間」という枠組みを中心に出版されてきた
- ◇ 2021年度入試から、AIを媒介にした新たなデジタル環境が社会を包み込んでいくという新しいタイプが出現
- ◇ 利便さや楽しさとともに個人情報も活用されていく仕組みを問う
- ◇ 「AI vs 人間」から「AIデジタル」へ出題のフェーズが変わった

■ まとめと今後の学習に向けて

- ◇ 課題文を読むとき、筆者がどのような常識論に異和感(違和感)を示しているかを意識する
- ◇ なぜ、筆者があえて常識論と違う視点から述べようとしたのか、その問いの重みを受け止める
- ◇ 筆者の主張を共有して賛成論で書くのが基本
- ◇ 安易な反論は、筆者が違和感を覚えた常識論に戻ってしまう
- ◇ 筆者の主張を共有し、筆者が挙げているのは違う具体例を考える
- ◇ 小論文は社会問題が中心
- ◇ 個人の経験や気持ちを書く作文・感想文と違うのは、小論文が「社会」について考えることが中心になる点
- ◇ 社会問題に対する知識や情報がないと書くことはできない ⇒ 「知らない」と書けない
- ◇ 学部の専門分野のテーマやトピックスが出るとは限らない
- ◇ 現代の社会問題は様々な要素が絡み合っているため、あらゆる学部系統の学問が関係している

■ 系統別：読んでおきたい本

大堀先生からご自身が書かれた『小論文 書き方と考え方』(講談社選書メチエ)、『マンガでわかる！小論文』(学研プラス)に加えて、『18歳からの格差論』(井出 英策/東洋経済新報社)、『感染症と文明』(山本 太郎/岩波選書)、『「利他」とは何か』(伊藤 亜紗/集英社新書)、『科学者が人間であること』(中村 佳子/岩波新書)、『看護師という生き方』(近藤 仁美/イースト新書Q)、『知の体力』(永田 和宏/新潮新書)、『つながり続ける ことば食堂』(湯浅 誠/中央公論社)が挙げられています。

「第5回保護者対象進路研修会」について (再掲)

以下にて、「第5回保護者対象進路研修会」を行います。2年生保護者を対象にしています。

日 時	: 令和5年2月18日(土) 14:00~15:30
場 所	: 本校視聴覚教室(予定)
内 容	: 「受験生を伸ばす親 つぶす親」
講 師	: 河合塾広島校 英語講師 坂口 雅彦 様

先日、坂口先生と打ち合わせをしました。今年度、最後の研修会です。多くの参加者があればと思っています。

終わりに

新型コロナウイルス感染症の感染者数が減少傾向にあります。また、5月の連休明けを目途に感染症法上の扱いが2類から5類へと移行されるようです。この週末には、宮島で3年ぶりに「マラソン大会」が行われます。生徒たちは、「長い距離を走るのはいやだ」と言いますが、その口調には密かに楽しみにしているような気がします。まずは、天候に恵まれることを願っています。